

答

「フッ化物洗口事業」に取り組み施設においては、歯科医師等による保護者説明会を行い、事業への理解を深めていただき、希望状況を確認しながら実施している。説明会を実施した施設に通う子どもの保護者のほとんどが実施を希望している。

「いきいきもりん体操」を推進するための環境整備について

問

福島市版介護予防体操「いきいきもりん体操」を推進するにあたり、高齢者が安全に安心して参加するための集会所等の環境整備が求められている。

現在の市集会所建設費補助金制度では十分でないため、その対策を伺う。

答

「いきいきもりん体操」は地域住民の皆さんが主体となつて運営する通いの場において取り組むことを基本としており、通いの場づくりに対する市からの助成等はない。

現在取り組んでいる団体においても、身近な場所に集会所などの施設がない場合には、個人宅で行



いきいきもりん体操に取り組む皆さん

うなどそれぞれ工夫しながら会場を探し、活動している。

なお、通いの場づくりの環境整備については、先進自治体の取り組みなどを調査、研究していく。

■まちづくり

大笹生に設置する

道の駅の完成時期について

問

福島大笹生インターチェンジグループ内に設置する道の駅について、東京オリンピックが開催される2020年夏までにオープンする考えはあるのか伺う。

川又 康彦

答

一般的に道の駅については、基本計画策定からオープンまで4年から5年を要する。

今後、基本計画から建物建設工事まで様々な行程があり、2020年夏までのオープンは非常に困難な状況である。

しかしながら、東北中央道の相馬から米沢までの全線開通を2020年度末と見込んで、それに向けて整備が理想であり、早期オープンでできるよう推進していく。



福島大笹生インターチェンジ

福島県立医科大学まで通ずる

西道路の南伸について

問

福島西道路の南伸に向けた平成29年度の事業予定も含め、現在までの進捗状況について伺う。

半沢 正典

答

福島西道路の南伸は、国において平成24年度に事業着手し、平成27年度から小田地区の用地買収に入っている。

平成28年度においては、松川町浅川地区及び平石地区において事業用地の先行取得を行っている。また、小田地区において、本年4月下旬に軟弱地盤対策の道路改良工事の準備に着手する見通しである。

平成29年度においては、大森地区の先行取得を行っていく予定である。用地交渉にあたっては、多くの家屋移転が伴うことから、土地所有者に寄り添い、丁寧に対応していく。

■教育・文化

学校司書、司書教諭の配置計画について

問

平成29年度は「学校司書配置モデル事業」から「学校図書館支援事業」に事業名が変更になった。

今後の学校司書、司書教諭の配置計画について伺う。

沢井 和宏

答

平成29年度は、小学校24校、中学校9校の計33校に12名の学校司書の配置を予定している。こ

れは、全体の48%であり、平成31年度までに100%配置を目指す。

司書教諭につ

いては、12学級以上の学校に対し、100%配置をしていく。



市立小・中学校の適正規模・適正配置を図るための進め方について

問

第一段階として「在籍がゼロの学年がある小・中学校」「複式学級を持つ小・中学校」で今後も同様の状態が継続すると見込まれる10小学校、1中学校について緊急に適正化に着手すべきと考える。

また第二段階として、「学校における教育機能が十分に発揮できるに足る下限児童数に満たない学校」「第三段階として、「クラス替えが可能な学級数以上に満たない学校」の適正化に取り組むべきと考えるが、その進め方に対する認識も含め見解を伺う。

佐久間 行夫

答

適正化の進め方については、平成28年度末に出される「今後の福島市立学校の在り方検討委員会」からの答申を受け、市立小・中学校の統廃合計画や今後のあり方について制度設計し、総合的かつ計画的に推進していく。

指摘のような段階的实施についても、今後の制度設計の中で検討していく。